

設 立 趣 旨 書

現代社会におけるひとり親家庭

多様な生き方、多様な家族のあり方が認知されてきた昨今、ひとり親家庭の数は増加しています。インターネットで自由に情報が得られる反面、人とのつながりが希薄となり、孤独や不安を抱えている姿は他者に窺い知ることは困難です。

加えて、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、ひとり親たちは社会的経済的に窮地に追い込まれました。

そのような制約が多いなかで、社会で働き収入を得、子育てを担う重責はひとり親の心身に大きな負担をかけています。身体的にも精神的にも疲弊しやすく、一度傷ついた身体と心が回復するのは簡単ではありません。社会的に偏見を持たれることの多いひとり親たちへの支援や理解は、まだまだ十分とは言えません。

孤独と戦う若者たち

ひとり親家庭で育った子どもたちはときに、経済的な困窮を経験し、孤独な幼少期を過ごし、自らのアイデンティティと向き合いながらも答えを見いだせないままです。社会的にも経済的にも自立できないまま、自らの居場所を探して親元から離れ独立した生計を営もうと努力をしている若者たちです。一部は「ピーターパン症候群」と呼ばれることもあり、医療的支援が必要となる場合もあります。

あるいは親や祖父母の介護やケアを行うなど「ヤングケアラー」と呼ばれる子どもたちもあり、その生活に疑問を持つことすら知らずに、誰にも頼れずに成長し、生きる意味を見出せず人生に迷うケースもあります。

これらはひとり親家庭への支援および孤立する世帯への社会的介入が不十分であることの弊害と捉えています。

人と人とのつながり、まわりまわる助け合いの輪

人と人とのつながりにおいて「ピアサポート」の役割は大きいと感じています。同じ苦しみや生きづらさを抱える当事者や経験者が互いを支え合う「ピアサポート」活動を促進し、「仲間」「経験者」から体験や有益な情報を共有することは、医療や福祉を超えた援助が期待されます。

一方的な支援とは違う「ピアサポート」の利点は①仲間がいるという事実が精神的な安定につながること、②当事者や経験者との交流を通じて実体験に基づく知識やノウハウ、アドバイスなど貴重で有益な情報を得られること、③不安で先が見えない当事者にとって経験者は、希望や目標を見出すための良いロールモデルとなり得ること、が挙げられます。

このような「ピアサポート」で助けられた人たちが、今度は自分の実体験で誰かの救いになれる。ひまわりの提供する「まわりまわる助け合いの輪」によるつながりが、当事者の生きる力にもつながると考えます。

自分らしく生きること誇りを持つこと

どのような境遇にあっても、自分の選択に誇りを持ち、自分を大切に、自分らしく生きることが自身の尊厳につながります。そのためには、心身が健康であること、加えて人とのつながりが土台として必要です。ひまわりは、仕事と育児で疲労しがちで情報弱者でもある状況にあるひとり親が、自分らしく生きること、自分の持っている力に気付ける機会を提供し、誰もが自分らしく生きること誇りを持ち、孤独ではないと思える伴走支援をおこないます。

ひとり親家庭を取り巻く全ての人にとって、ひとりひとりが尊重され、個別性を重視され自分らしく生きることが出来る社会を作ることに寄与するべく、営利を追及せず、情報公開が義務付けられており、透明性や公平性が求められている特定非営利活動法人として設立し、地域の信頼が得られるよう、継続性と責任性のある法人として活動していきます。

2022年 12月 1日

法人の名称 特定非営利活動法人ひまわり

設立代表者 佐藤智子